リ異論ヲ述ヘタルカ、熊本ヨリ自動車部ノ上申セル委員候補者篠田ハ十八ヲ選任セサリシ理由ニ就テハ本部執行委員會ハ愼重審議ノ結果一、二意見アリタルモ植村貞雄ヲ選任スルコトニ決議セリ、然レトモ調停委員會開催ノ過程ニ於テ篠田ノ出席ヲ必要トスル場合ハ組合ノ為進テ出席セシムレ、尚電車部ヨリ委員ヲ選任セサリシ理由トシテ歸平末松ヨリ、自分ハ電車部選任ノ首腦部員ナルヲ以テ自分モ委員トナルベキヲアルカ健康ノ勝レサルトヤ能等ノ点モ考慮シ、コノ重大責任アル調停委員ニハ部ノ如何ヲ問ハス組合ノ為ニハ最モ適材ヲ選任スヘキナルコトノ観点ヨリ辞退シタ次第ヲアル

ト述ヘ以上ヲ以テ中央斗争委員會ヲ終ル

午後二時二十五分別記ノ如キ休戦指令ヲ首脳部ノ名ニ於テ發行、中央斗争委員ヲ通シ各支部ニ配布セリ

以上

別紙

休戦指令

九月十六日正午

東交争議團首脳部

我等は去る五日電気局の全従業員一万二千と其家族五万をして餓死せんめんとする苦吉未曾有の大暴圧に対し断乎罷業を開始以来茲に十有二日。其間一糸乱れず厳格なる規律と整然たる統制の下に堂々斗争の陣を進め勇敢に我国に於ける厳史的罷業として労働運動史上燦然たる光輝を放つに至つたのである。之こそ全兄弟諸君が永き訓練と團結の偉力を発揮し死斗以つて大暴圧を粉砕し根底より破壊し去らんとした生活を防衛せんとしたが為である。

我等が罷業開始以来全国無産團体は一斉に応援に蜂起し社会の輿論は翕然として我等を支持し交通機関を奪はれ交通不安は絶頂に達し乍らも市民又我等の立場を理解し当局への非難は日一日高まり彼等をして狼狽そう極に達せしめたのだ。

斯の如く我等の日を追つて強化する斗争力と又社会的輿論の高揚支持は我等の勝利を確実としたのである。而して常軌を逸した当局の罷業に対する態度は益々交通不安を増大し社会的輿論の指弾を受けるに至り監督官庁たる善視庁の強制調停の発動する処となつたのである。

我等は例へ強制調停委員会が開設されても当局に於て暴圧を撤回し白紙に戻らざる以上断乎罷業を継続し調停委員会とは別個に飽く迄我は人としたのであつが当局に於ても善視總監の切なる勧告もあり社会輿論の更に反撥するを恐れ妥協案を留保し調停委員会に臨む事を考慮したのである。而して調停委員会に於ては斗争なる立場に立つて市電更生案は検討せられ留保は事実と於て撤回と今様